令和８年度　第２回多摩市子ども・若者・子育て会議　要点録

日時	令和８年７月１０日（金）　１５：００～１６：５０
場所	多摩市役所　301・302 会議室
参加者	加藤委員、山岡委員、山口委員、西委員、田中委員、亀山委員、大門委員、比田井委員、久保委員、森田委員

１．開会

２．協議

【協議事項】

（１）審議テーマの選定に向けた意見交換について

会長：審議テーマの選定に向けた意見交換にあたり、前回いただいた委員のご意見も踏まえ、「審議テーマの策定に向けた資料」（協議資料 1）を用意した。テーマ選定にあたり、一つの切り口として、まず私から資料を基に説明させていただく。

その後、委員の皆様からご意見をいただきながら、テーマの方向性について議論を深めていきたい。

（会長より協議事項の説明）

事務局：前回の会議で、毎年度行う点検・評価に加え、特に審議を深める必要がある課題をテーマに選定し、当事者や専門家等の意見を伺う機会等を設け、市の現状と課題を共通認識したうえで意見を交わし、その結果をニーズ調査や次期計画に反映することを決定している。令和 10 年度に次期計画の基礎資料としてニーズ調査を行う予定である。時代に合わせた課題に取り組んでいけるよう、先を見据えて現行計画の毎年度の評価とは別に、テーマを決めて次期計画に活かせるご意見をいただきたいと考えている。子どもの意見を聴くことは欠かせないと思っているが、今後に向けて話し合っていくテーマを決めていただきたい。委員の皆様から今後の審議テーマや議論すべき事項について、自由にご意見をいただきたい。

委員：これからの多摩市の子育てを支えていくということで言えば、事業者同士の共生・共存も課題になってくる。多摩市の働きかけをいただきながら、色んな繋がりをつくっているところだが、子どもが減っている中で保育所、幼稚園、小中学校の在り方も変わっていくと思う。小中学校については不登校問題、子どもの居場所も課題だが、保育所、幼稚園、小中学校、フリースクールなど、利用者の視点で横の繋がりがあると

よい。ヤングケアラー等も課題、いかに市と民間事業者、団体が連携して繋がっていけるか。

会長：関係する人が一堂に集まって、話し合いをする場を設けるということか。

委員：保育所、学校、子育てをしている人の意見や課題をしっかり解っているようで解っていない。それぞれの課題をそれぞれの視点で話し合って理解を深め、繋がりの場を増やしたい。

委員：どれも大事な問題で、ここから絞るのは難しい。子どもの意見表明権と子ども本人が困っているかはまた別の問題。居場所がないと思っていても、少し成長すれば公園に行っているかもしれない。困っていることに気づけていないこともある。地域では心配していても、ご両親・本人自体が困っていると思っていない。困っていると言っていいか、困っていることを聞いてあげられる機会や場所があればいい。学校の代表から意見を募るとできる子が来てしまう。困り感を言語化できない子へヒアリングできたらいいのではないか。子ども・若者の行政の支援は受けられないけど必死に納税している世代もいる。そういう若者の声を聴ける場があればいいのではと思う。

会長：当事者である子どもたち自身はどう考えているかに向き合う必要がある。意見表明を取り上げていくにしても、ヒアリングの機会をつくりながら進めることが大事。

委員：テーマを選定するのは、今年度中までにということか？

事務局：委員の任期は、令和 10 年 12 月までである。審議テーマを決めていただき、任期内に意見交換、まとめをお願いしたい。

委員：現行計画を評価していくことでも新しい課題は見えてくるとは思うが、それ以外に新しい課題、テーマを見つけていくのか。

事務局：新しいテーマでなくとも、今ある課題の深掘りもあると思っている。先ほど会長からご説明いただいた資料に、前回のみなさまの意見をまとめ、5 つのテーマとしてお示ししている。それも参考にしながら意見交換し、テーマ決めていただきたい。

委員：子どもの支援はいくらでもできるけど保護者への支援は課題。専門家の力を借りながら発達に関する支援はできる。でも愛着障害を持ったまま子育てに突入している人たちには一緒に書類を書くところから、一から一緒に行う必要がある。自分の子どもに

どうしてあげたらいいのかわからない。子どもと子どもを育てる側の問題に、保育や教育、市がどう関わっていくのか。健やかな子育てをするためには、本人が健やかに育っていないといけない。それぞれ立場も考えていることも違うけれど、課題を出し合っていかないと整理もできない。

委員：市はどこに力を入れたいと思っているのか、学校の先生たちはフリースクールの存在に対してはどう思っているのか、一つ一つ情報交換したいと思うことはたくさんある。

会長：特定のテーマに焦点を当てるよりも課題がある人が課題を引きずってしまう、という構造の話や、市からどんな課題があるのか共有してもらいたい、また、どの課題も大事であるという意見が出ているが、前半は課題をさらに共有したり疑問を出し合う場にして、後半はヒアリングしたり、市の強みと課題を踏まえてテーマを決めるための議論にするのはどうか。

事務局：手法は問わない。今日は会長から権利の話をしてもらったが、それぞれの委員から学校の現場や、保育の現場における課題を話してもらってもいいし、実際にこども家庭センターに行ってみるとか、図書館に行って子どもの様子をみてみるとか、テーマはひとつでもいい。任期の中でたくさん意見をいただければよい。

委員：子どもの数が減っていくことについて意見があったが、保育人材は足りているのか。保育料の補助はどの程度出ているのか。他の自治体では両親の収入で保育料が決まるところがあるが。保育士の収入はどうなのか。やめてしまう人も多いと聞く。

事務局：子どもの人数は減っているが、共働き家庭も多く保育ニーズは高まっている。園によっては保育人材の確保は難しくなってきていると聞いている。人材が減らないように国でも収入が他の業種に追いつくよう対応して、年々上がってきてはいる。
保育料は、都内は無償化されている。

委員：定員が空いているとその分の補助金がなくなってしまうため、定員に応じて雇用している保育士への給料を支払うのが大変になってしまうが、空いた枠で新しく「こども誰でも通園制度」も始まっている。今後も空き定員が出てきたことによって、別の事業者と連携してできる事業や、保育の質の向上など見直すこともできるのでは。

事務局：今回及び前回の会議において頂戴したご意見を踏まえ、次回の会議では審議テーマを決定させていただきたい。

（２）多摩市子ども・若者・子育てプラン令和７年度の取組と成果等について
（事務局より協議事項の説明）

～質疑等なし～

３.報告
（１）「たまこどもフェス 2026」の開催結果について
（事務局より報告事項の説明）

～質疑等なし～

（２）令和８年度子ども・若者川柳入選作品の決定について
（事務局より報告事項の説明）

～質疑等なし～

（３）高校生からの提言～世界の課題から、多摩市の未来を提言する～について
（事務局より報告事項の説明）

～質疑等なし～

（４）令和７年度「多摩市こども誰でも通園事業」（乳児等通園支援事業）の実施結果について
（事務局より報告事項の説明）

～質疑等なし～

（５）令和９年度認可保育所等及び学童クラブの入所受付スケジュールについて
（事務局より報告事項の説明）

～質疑等なし～

（６）令和７年度ヤングケアラーに関する取組みについて
（事務局より報告事項の説明）

～質疑等なし～

（７）多摩市子どもの虐待対応マニュアルの改訂について
（事務局より報告事項の説明）

委員：性暴力防止法について、関連して整備されていくのか。

事務局：子どもの虐待は保護者から、性暴力は職員からで別だが、今後、関係者に勉強会等をして、整えていくことになる。

（８）令和７年度こども家庭センターの相談状況について
（事務局より報告事項の説明）

～質疑等なし～

８.閉会